

共通科目「総合講座（比較思想）」（丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業）

東アジアにおける近代化と思想

コーディネーター 安藤 信廣

二〇一二年度後期の公開講座「東アジアにおける近代化と思想」は、受講者募集案内の「授業概要」によれば、次のような目標を持って企画された。

現代日本における思想状況について、多様な視点から考察し、特に他の文化圏の思考形態や他の時代の文化との比較を通して新しい問題を提起します。戦後日本の思想界をリードしてきた丸山眞男の仕事をつまみ、アジアとの関係、戦争と平和、教育と社会認識等の側面から、現代日本の抱える問題を考察します。

こうした目標のもとに、安藤をコーディネーターとし、東京女子大学教授四名による全一四回のチェンレクチャーター形式で講義が行われた（一四回の概要は末尾の案内を参照）。

安藤信廣担当の「日中両国の近代化と『イソップ物語』」は、一八四

〇年代に中国・上海で刊行された『伊娑菩諭言』等をもとに、一九世紀の日中両国がヨーロッパの圧力をどのように受けとめたかを考察した。

『伊娑菩諭言』は、『イソップ物語』の漢語訳本であり、一八四〇年、中国・広東で英人ロバート・トームによって翻訳・刊行された『意拾諭言』を基とする一本である。この『伊娑菩諭言』が幕末嘉永・安政年間に日本に伝わった。その最初の読者の一人が吉田松陰（一八三〇—一八五九）だった。

吉田松陰は、『伊娑菩諭言』を「自謀騙人」の物語として受けとめ、西欧人の政治思想、ことに西欧人が侵略を行う際の論理を示すものとして、把握した。攘夷の信念を強める方向で把握したのである。しかしもう一方で、日本を相対化して見る視点を育てる一助にもなった。松陰の複雑な思想的営為の、一断面がここに見える。

一方、中国では、清朝末期の啓蒙的翻訳家林纾（一八五二—一九二四）が、一九〇六年に『イソップ物語』を『伊索寓言』と題して漢語

訳している。この書の大きな特徴は、それぞれの寓話の後に記者の意見が自由に書き込まれているという点である。ことに西欧の圧迫に対して主体性を守り独立を貫くことを強調して説くものが多い。松陰は幕府批判という政治論の確立に向かい、林舒は抵抗主体の確立という倫理観の形成に向かったということができよう。

一九世紀日本と中国の近代化の出発点において、「イソップ物語」に出会った二人の対応の中に、両国の抱え込んだ課題を追究することを試みた。

茂木敏夫担当の「近現代東アジアにおける「日本問題」と「中国問題」は、一九世紀以後の日中両国が西欧との対峙の中でどのように自らの自立を保持して来たかを検討した。

一九世紀の東アジアは、西洋起源の異質の原理によって構築された新たな政治・経済・思想・文化、あるいはそうした価値を体現する人々と遭遇し、どのようにして自らの自立を保持するかを模索することになった。日本や中国などは、主流となった近代世界の諸価値にアピールすることによって、西洋帝国主義からの自立を確保しつつ、東アジアの地域世界において主導権を確保することを試みる。

その際、日本と中国は近代世界において、「われわれ」を、そして「彼ら」をどう位置付けるかをめぐって、近代世界にアピールするイメージの競い合いをすることとなった——一九世紀以降の東アジアの国際関係史を、このような側面から理解することも可能であろう。例えば、

「文明の日本と半開の中国」、「進んだ日本と遅れた中国」、「帝国主義の日本と抵抗する中国」、「民主主義の日本と一党独裁の中国」、「加害者の日本と被害者の中国」、「海外ブランドをバクする中国」等々、と。

こうしてそれぞれが、「われわれ」と「彼ら」を、グローバルに主流となったあるイメージにはめ込んで問題化させ、東アジアの主導権争いにおいて「われわれ」を有利に導こうと試みた。こうした現象を、授業ではとりあえず「日本問題」と「中国問題」と呼んだ。

授業では、近現代におけるこうした問題を、一九世紀後半、二〇世紀前半、二〇世紀後半から現在の三回にわけてその概要を紹介し、その背景にある価値観や思想状況を読み解いていくことを試みた。

黒沢文貴担当の「軍隊・戦争・和解」は、近代の戦争に対する日本陸軍の準備や、太平洋戦争期の捕虜虐待、戦後の歴史認識について考えた。

第一回は、大正時代後期における陸軍官僚の「革新」化について、総力戦と大正デモクラシーという二つの衝撃の側面から考察した。第二回は、太平洋戦争敗戦後の戦犯裁判で大きな問題となった日本軍の欧米人捕虜に対する虐待の問題をとりあげ、その原因を探究した。第三回は、昭和戦前期日本の戦争と植民地支配をめぐる戦後の歴史研究と歴史認識の問題を考察した。

雨田英一担当の「近代日本における競争と教育」は、明治以降の日

本において、近代社会の構成原理、社会的価値の配分原理である「能力の原理」がもたらした「競争と教育」の結びつきに注目し、その結びつき方と展開の基本的な性格と問題点について考察した。

「競争と教育」の結びつき方については、まず、身分的特権を失った氏族層を中心として沸き起こった「立身出世主義」が挙げられる。日本の近代化を推進した活動の思想的・心情的な起動力として注目されてきたが、授業では加えて文化的遺産・資本の継承という観点から考えた。また国民の下層にまで広まった「成功」熱を取り上げた。次に、国民教育制度として整備された単線の階梯的学校制度と、任用原理を属性から能力に切りかえた官吏任用制度との結びつきによって引き起こされた「学歴主義」を取り上げた。この競争は、実業界に労務管理制度が形成されると、国民各層に広まった。官界・実業界とも、労務管理の基本的な性格は、人格的支配関係を含んでいる点にあった。このことが、単線の階梯的学校制度と結びついて、より上位の学校を目指す進学競争を引き起こす要因となった。進学競争は戦後、民主化と工業化のもとで国民の間に浸透していく。最後に、国民を競争へと駆り立てた観念に、適者生存・弱肉強食・優勝劣敗という社会ダーウイニズム的「生存競争」的な競争観が作用していた点に注目し、この競争観との関連で問題点を整理した。

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター
公開授業

2012 年度後期 総合講座（比較思想）
受講者募集のご案内

当センターでは 2005 年度から、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる公開講座を設置しております。2012 年度は、「比較思想」、「総合講座（比較思想）」を開講し、学部学生とともに学外の方々にも公開いたします。

なお、これまでの当センターの経験と実績をふまえ、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に、研究拠点を形成する研究プロジェクトとして「20 世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」を申請し、2012 年 4 月に採択されました。

○科目名：「総合講座（比較思想）」 **東アジアにおける近代化と思想**

○授業概要

現代日本における思想状況について、多様な視点から考察し、特に他の文化圏の思考形態や他の時代の文化との比較を通して新しい問題を提起します。戦後日本の思想界をリードしてきた丸山眞男の仕事をもとに、アジアとの関係、戦争と平和、教育と社会認識等の側面から、現代日本の抱える問題を考察します。

コーディネーター：安藤 信廣（東京女子大学教授）

回	日	テーマ	講師名	
1	9/25	イントロダクション	黒沢 文貴	東京女子大学教授
2	10/2	日中国の近代化と「イソップ物語」1	安藤 信廣	東京女子大学教授
3	10/9	日中国の近代化と「イソップ物語」2		
4	10/16	日中国の近代化と「イソップ物語」3		
5	10/23	近現代東アジアにおける「日本問題」と「中国問題」1	茂木 敏夫	東京女子大学教授
6	10/30	近現代東アジアにおける「日本問題」と「中国問題」2		
7	11/6	近現代東アジアにおける「日本問題」と「中国問題」3		
8	11/13	軍隊・戦争・和解 1	黒沢 文貴	東京女子大学教授
9	11/20	軍隊・戦争・和解 2		
10	11/27	軍隊・戦争・和解 3		
11	12/11	近代日本における競争と教育 1	雨田 英一	東京女子大学教授
12	12/18	近代日本における競争と教育 2		
13	1/8	近代日本における競争と教育 3		
14	1/15	まとめ		

期 間 2012年9月25日～2013年1月15日

(12/4, 12/25, 1/1は授業なし・全14回)

時 間 毎週 火曜日 4時限目 (14:55～16:25)

会 場 東京女子大学 (教室は当日正門付近の掲示板でご案内します)

対 象 原則として18歳以上の男女

定 員 30名

受講料 10,000円

(テキスト代等を含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承下さい。)

【申込方法】 郵送・FAX・Eメールのいずれにてもお申込みいただけます。郵送・FAXの場合は同封の申込用紙にて、Eメールの場合は、お名前、ご住所、お電話番号、ご年齢、性別、受講動機を明記の上、お申込みください。

【締め切り】 8月22日 水曜日(必着)

【結果通知】 9月上旬に結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

【受講手続】 受講を認められた方は、結果通知ハガキ所載の口座に受講料をお振込みの上、結果通知ハガキを授業初日に会場にお持ち下さい。

請求・送付先：〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター事務局
TEL: 03-5382-6817 (内線 2648) FAX: 03-5382-6120
月～金・10時～17時 (12:00～13:00を除く)
メールアドレス: marubun@lab.twcu.ac.jp

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/index.html>

※授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。